

艇移動 千葉や東京も

藤沢市の江の島で来年開催される東京五輪セーリング競技の会場整備に伴い、現地に保管されている艇の移動先として、県が県内外の少なくとも13施設で最終調整していることが分かった。千葉や東京の遠方が含まれ、移動期間も計画当初より長期化し、利用者の反発が強まっている。

(川島 秀宣)

出艇不可、長期化...

県が19、20日に江の島で開いた利用者向けの説明会で方針を明らかにした。県によると、会場となる湘南港に保管されているのは、陸置きのディンギー(小型ヨット)が617艇、係留と陸置きのクルーザーがそれぞれ75艇と58艇。ディンギーについては、120艇は計画通り、葉山港(葉山町)に収容。290艇は稲毛ヨットハーバー(千葉市)、若洲ヨット訓練所(東京都江東区)、逗葉フリートハウス(逗子市)で受け入れられる見通しになったほか、70艇余りは民間を含む県内のマリナーで調整している。残る130艇余りは平塚、茅ヶ崎市内の県有地で検討しているが、出艇できない環境になりそう

江の島・五輪セーリング会場整備

だ。県はもとより、大半のディンギーの移動先として、茅ヶ崎漁港(茅ヶ崎市)の空き地を整備する計画で地元と合意し

利用者の反発強まる



ていた。ただ、入出艇時の安全面に支障が生じ、昨夏に断念。代わりの施設を探していた。クルーザーは横浜、横須賀、三浦、逗子、葉山の5市町にある9カ所のマリナーで受け

入れる方針。ディンギー、クルーザーともに移動先について利用者の希望を募るが、定数を超えた場合は抽選になる。運搬に伴う費用は主催者が負担するよう、県は大会組織委員会に求めている。組織委は来年2月に会場整備を始める方針で、県は早ければ同1月中旬からの移動を利用者に求め、帰艇できるのは会場撤収後の同10月ごろと想定している。移動期間についてこれまで、「3〜5カ月」と説明していたが、「8カ月

ほど」に修正した。神奈川県大2年でヨット部の女子学生(20)は五輪には積極的に協力するつもりだが、「キャンパスから遠ざかれば部活動に影響する。千葉になったとしても通えない」と説明会で県側に訴えた。鎌倉市の男性(65)は「抽選に外れたらヨットに乗れなくなる恐れがある。8カ月はあまりに長い」と話し、県に再考を求めている。県セーリング課は神奈川県新聞の取材に「各施設に収容限度があり、心苦しいが、現実的に希望に沿えない場合が生じてしまう」と釈明。移動期間については「できる限り短くなるよう組織委に掛け合った」と話している。



①湘南港に陸置きされているディンギー
②県が開催した説明会。2日間で約350人が参加した

20日、江の島ヨットハウス